

---

# 尊神

星見

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

噂神

### 【Nコード】

N4957D

### 【作者名】

星見

### 【あらすじ】

私は都市伝説が好きで、街で有名な噂を調査しました。すると

いま思えば、あれは夢だったのかもしれない…。

そんな、非現実的な出来事に、私は遭遇しました。

今私は病院の消毒くさいベッドの上。

頭には包帯。

そんな見た目ほど酷くはない傷だが、一応入院中。

なぜ、こんなことになったか、これからお話しますが、これは現実の話です。……たぶん。

私は佐々木優里。ごくごく普通の女子高生です。そんな私には1つ趣味がありました。それは都市伝説を調べることです。

都市伝説はご存知ですか？まあ、簡単に言っちゃえば噂です。人から人へ伝わることにより、尾ひれがついて大きくなる伝説。私はそれを趣味で調べてます。友達には変って言われるけど…。

私はこれまで結構調べてきました。

ミミズバーガー

死体洗いのアルバイト

口裂け女

首なしライダー

どれも結構有名ですよな？

調べるっていつでも、パソコンとか携帯でサイトみつけて見比べたりしてるんですが、それだけじゃ物足りない。

それで最近友達に訊いた噂、路地裏の狼を調査することにしました。この噂は私の住んでる街での噂だから現地調査もできるし、私は結構ノリノリでした。

路地裏の狼 というのは、最近広まった都市伝説で、マツクの路地裏に日本にはいない狼が出る、というものです。“噂の目撃者”曰わく、大人三人分の大きさはあるらしいんですが、普段はどこに  
いるんだって話ですよな？

とにかく、私は調べました。主な方法は掲示板と聞き込み。その目撃者っていうのが実在するのかを突き止めたかったです。

結果、目撃者は見つけれなかったけど、その狼については少し判ったことがあります。

どうやら、狼が出るのはいくつか条件があるらしく。

一：真夜中、午前零時から一時の間

二：大神と掛かれた札をもつ

この二つらしいです。正直言って意味がわからないけど、都市伝説というのはそういうもの。

というわけで、私は深夜、路地裏へ行くことにしました。もちろん、本当に出ると思っていない、これは好奇心です。

+++++

「……3…2…1…」

午前零時。私は路地裏に来ていました。昼間でも薄暗い路地裏は、深夜は真っ暗で、懐中電灯がなかったら来るのも難しかったと思います。

片手には懐中電灯。もう1つは 大神 とマジックで書いた画用紙。数分間待ってみただけ何も起きず、私はため息をついてました。

検証もすんだし、帰ろうと思い、札をくしゃって丸めたとき、だんだんだんって大きな音がします。

規則的で、まるで足音みたいなのが私に近づいてくるように、どんどん大きくなっていき、私は焦燥に駆られ、自分の中でパニックが先行してしまい、逃げることもできず、情けなく震えて突っ立ってました。

ぐぐああああああああ

唸り声が足音に混じって聴こえます。そして、突然ソレは現れました。

ぐげげがあああああああ

狂った唸りを響かせ、激しい足音を鳴らすソレは、私からしたら狼でもなんでもありません。

獣、でした。

ぐぐいああああいああ

闇の中でもなぜかはつきり認識できるその姿。私の五倍はあるだろう体躯は闇色の体毛で覆われ、その双眸は獲物である私を残忍さと貪欲さを兼ね備えていました。時折、じゅるり、と舌なめずりが聴こえます。

ガリガリと四足歩行するその太い足には歪な鉤爪が備えられ、アスファルトを抉っています。

こういう時、人は二つの行動をとります。

1つは火事場の馬鹿力をだして逃げるか、へなへたと震えるかです。私は後者でした。

アスファルトに倒れこみ、巨大な獣を目を見開いて凝視したまま、ずるずると後ろへ後退。

ぐげげええ

獣が、嘲笑いました。剥き出した口内に並ぶ醜い牙。だらんと唾液が零れています。ききいとアスファルトを削る爪も、私を引き裂こうとつずつずしているように思え、全身から血の気が失せました。

そして、獣は狩りの体勢に入りました。重心を低くし、瞬時に獲物を引き裂くような構え。あの牙の、あの爪の前ではあまりに無力な私では、かすれた声をあげることしかできません。

ぐがああいああ、あ、

獣が叫びました。それと同時に疾走し、私は体を強ばらせます。そ

の直後、しゃりん、という金属音が響きました。それに続いて獣の唸り声。

私の目には、左目から闇色の血をだらだら流してもがき暴れる獣が見えました。その左目には何かが突き刺さっており、ちやり、と鎖が繋がっています。有り体に言えば、それはおそらく“鎖鎌”というものでした。ぐぢゅりっ、獣がもがくたびに肉が抉れる音がします。

私の目は無意識に鎖が繋がる先を辿っていました。鎖は闇の中でもハッキリ見える銀色です。

じゃり…

足音がします。これは間違い無く人間の足音。

男がいました。それも二人。両方とも闇に溶けるダークスーツで、中に着ているシャツすら闇。その他一切が闇色です。

「あらや…一般人だ」

男の1人が声を上げました。高くも低くもない、極普通の声。鎖は男が握っていました。右手にもう1つ鎌を持ち、その鎖を左で握っています。

「あーあ…どうしますああい!？」

男の声が奇妙に変わりました。それは、獣が鎖を噛み締め思い切り引っ張ったからです。男は鎖に引き吊られましたが、逆に自分から跳躍したように、高く跳びました。空中で体勢を整え、獣の真上へ。そして。

ぐじゅー!

再び肉が裂ける音が響き渡り、私の目には男の手にする鎌が獣のもう片方の眼を抉っている所が映りました。

「がやあゝいゝ あああ

獣が奇妙な断末魔をあげます。崩れ落ちる巨軀、男は双眸に突き刺さった鎌を抜き取り跳躍します。

「完了ッス」

男が言った。

「あ…あの…」

これは私です。恐怖と畏怖と好奇心。それが私の体を支配していました。男は私を見て、暫し考えるように頭を掻きました。近くだから判りましたが、男の頭は坊主でした。

「……天義さん。一般人どうするんスか？」

悩んだ割に案外あっさりと助けを求めた男は、もう1人に向かって振り向いた。もう1人の男はプカプカ煙草をくゆらせていたが、呼ばれたことに気づき、私の方へ歩いてきます。

「説明すればいいだろ？ 隆地」

「いいんスか？」

「ああ、知らないってのは案外怖いし不安だからな」

そう言つて煙草の男はポケットから携帯灰皿を取り出して煙草を収めました。こちらの男は髪がちよつと長く、整髪料をつかつて無造作にしています。

「えーっと、お嬢さん」



「へ？」

お嬢さんと呼ばれて正直面食らいました。だって坊主の男も、顔を見る限りではかなり若く、多分私と同じ年か、少し上くらいです。

「さっきのヤツ、えと、なんていうんだっけ？」

「路地裏の狼……？」

「それそれ。あれな、噂神っていうんだ」

「う……うわ……さ……がみ？」

「そう、噂神。いつてしまえば都市伝説の種」

都市伝説の種？私の思考はいままでの非現実的な出来事で限界一手前でした。

「で、その噂神を殺すのが俺たちの仕事。」

「殺す……？」

あんな化け物を？私は信じられない気持ちで黒服の男を見つめていました。

「そう、俺たちは 闇狩。      いろいろあるんだけど、とりあえず話はここまで」

ちやり……と鎖の擦れる金属音が再び聞こえ、風を凧ぐ音が響きます。

「じゃね。ああ、この話あんま人に言わない方がいいぜ？可哀相な眼で見られるからな」

それが最後でした。そこから先の記憶はぶつつりと切れ、気づいたら病院のベッド。母が言うには私が自分で転んで頭を打って気絶してることを発見されたらしいんですけど……。

この話、結局なんだったんですかね？

外国では メンインブラック っていう都市伝説があるんですけど、これはUFOを目撃または遭遇したときに現れ、警告するって話です。この都市伝説で映画も作られました。

彼らも、そういう存在だったのでしょうか？

謎ばかり残ってますが、私の話は終わります。これは引き続き調査ですね！

私は友達によく懲りないねって言われます。たぶん正解です。私の当面の目標は、彼ら闇狩を調べあげることになりました。

調査の結果はまた後日紹介できたらいいとおも……………

「お喋りだなあこの子」

「隆地、一発修正ハンマー04 使ったのか？」

「はい、一応」

「あんまり使うなよ？使い捨てなんだから」

「へーい、あつ、これ読んでもみんなは他言無用だからな。じゃ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4957d/>

---

噂神

2010年10月17日02時43分発行